

別添 2

記載例

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

令和 5 年 12 月 10 日

□□□□□□□□協議会 〇〇〇〇 殿

所在地 □□県△△市〇〇

取組実施者名 JA◇◇◇◇◇

代表者氏名 〇〇〇〇

令和 4 年度及び 5 年度肥料価格高騰対策事業取組中間報告書

肥料価格高騰対策事業実施要領（令和 3 年 12 月 20 日付け 3 農産第 2156 号農林水産省農産局長通知）第 13 の規定に基づき、下記のとおり報告する。

記

代表的な参加農業者へヒアリング等を行い、参加農業者全体の取組実施状況の傾向を把握して記載してください。
※参加農業者個々にヒアリング等を行う必要はありませんが、以降の各種報告ができるよう準備を進めてください。
※秋肥・春肥でそれぞれ報告書を作成し、提出してください。

取組の実施状況（秋肥・春肥） ※秋肥又は春肥に○を付けること。

取組メニュー	取組の実施状況
ア 土壌診断による施肥設計	農家への呼びかけを強化し、土壌診断の実施点数が増加傾向となっている。
イ 生育診断による施肥設計	センシングデータを用いた施肥設計に向けて IT 企業と協議を開始した。
ウ 地域の低投入型の施肥設計の導入	地域に合った低投入型肥料の銘柄を調査し、3 銘柄を選定した。
エ 堆肥の利用	堆肥提供者と供給量について交渉を行っているところ。
オ 汚泥肥料の利用（下水汚泥等）	汚泥肥料を利用した試験ほ場を設置し、生育試験を実施中。
カ 食品残渣など国内資源の利用（エとオ以外）	地域内においてペレット堆肥を混合した肥料の活用を促進している。

キ 有機質肥料（指定混合肥料等を含む）の利用	特殊肥料入り指定混合肥料を栽培暦の基本施肥銘柄に設定。
ク 緑肥作物の利用	緑肥種子の購入額を一部補助することによって注文数量が増加した。
ケ 肥料施用量の少ない品種の利用	〇〇〇〇（品種）を推奨品種に選定して作付拡大を図っているところ。
コ 低成分肥料（単肥配合を含む）の利用	〇〇〇〇（肥料銘柄）の販売量が増加傾向となっている。
サ 可変施肥機の利用（ドローンの活用等を含む）	ドローンを活用した追肥作業の試験を実施し、栽培マニュアルを作成中。
シ 局所施肥（側条施肥、うね立て同時施肥、灌注施肥等）の利用	3件の農家がうね立て同時施肥機を購入。
ス 育苗箱（ポット苗）施肥の利用	育苗箱専用の〇〇〇〇（肥料銘柄）の販売量が増加傾向となっている。
セ 化学肥料の使用量及びコスト低減の観点からの施肥量・肥料銘柄の見直し（ア～スに係るものを除く。）	農家に低価格の〇〇〇〇（肥料銘柄）の紹介したところ、販売量が増加傾向となっている。
ソ 地域特認技術の利用（ ）	

（注）

- 1 取組メニューには、取組実施者において取り組んでいるメニューを記入し、適宜、行を追加すること。
- 2 参加農業者が、中間期間までにどのような取組を行ったのか、また、取組前と比べてどの程度取組が進んでいるか、使用記録を参照し記入してください。